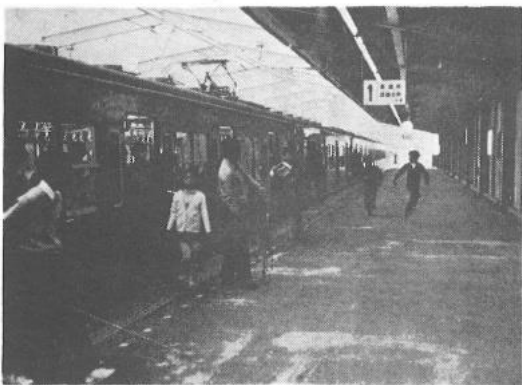


# 三郷駅の開業を伝える広報記事

昭和48年(1973年)4月広報みさと

(3) 昭和48年4月15日発行 広報みさと 第152号



三郷駅発電車時刻表

| 上り(南浦和、府中本町方面) | 時  | 下り(新松戸方面)  |
|----------------|----|------------|
|                | 5  | 49         |
| 42 26 6        | 6  | 7 26 45    |
| 50 35 19 2     | 7  | 2 18 33 49 |
| 56 37 22 26    | 8  | 5 20 38 56 |
| 57 27          | 9  | 31 56      |
| 51 25          | 10 | 34         |
| 23             | 11 | 5 45       |
| 46 7           | 12 | 29         |
| 28             | 13 | 11 49      |
| 47 6           | 14 | 30         |
| 57 20          | 15 | 3 40       |
| 39 17          | 16 | 1 22 47    |
| 46 26 5        | 17 | 9 29 46    |
| 47 25 2        | 18 | 7 26 48    |
| 54 31 9        | 19 | 14 35      |
| 27             | 20 | 11 42      |
| 37 3           | 21 | 13 43      |
| 49 7           | 22 | 15 47      |
| 25             | 23 |            |

※無印…府中本町、新松戸行・所…東所沢行・越…南越谷行

## 4月15日からバス路線かわる

武蔵野線の開通および三郷駅開駅にともない、吉川出張所―戸ヶ崎―亀有駅前線を除く今までの系統が全面廃止となり、4月15日から次のとおり新設されました。

みさと団地―三郷駅前―金町駅前(74回)  
吉川出張所―前新田―三郷駅前(往22 復19)  
吉川出張所―半田―三郷駅前(往3 復6)

## 4月1日 待望

緑武線が直結されます。京葉線は、川崎市から木更津市まで延長二〇四キロメートル。この線が完成しますと、川崎―府中―浦和―松戸―船橋―山崎の市を結ぶ文字通りの第二の山手線が実現するほか、川崎―船橋―木更津間の京浜・京葉工業地帯をレール一本で結ぶことができます。

①在京の首都圏を走る貨物列車を外環状に回すことで、通勤列車の増発、長距離列車発着駅の分散、換乗能力の向上となる。

②船橋、松戸、三郷、浦和、立川

など首都圏都市群を直結し、都心とこれらの市相互間の交通がきわめて便利になる。

③東京―千葉間の臨海工業地帯と港湾を結び、大量輸送を行なうことができる―などの効果があります。

三郷市の場合も、さきのべましたように、常磐、総武、京浜東北、中央各線への連絡が便利になるとともに、同線沿線都市との連絡交通が便利になることが明らかです。

いすれにしても、四月いち早く開通した武蔵野線は、都市間連絡の主要路線として、大きな期待が寄せられます。

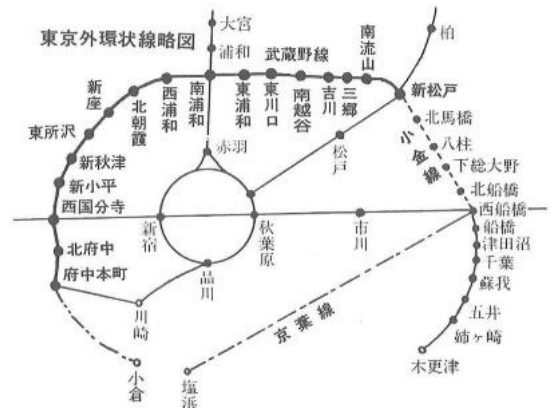
なお、三郷駅からの運賃は、下表のとおりです。

## 運賃表

|       |      |         |      |
|-------|------|---------|------|
|       |      | 西 浦 和   | 120円 |
| 新 松 戸 | 30円  | 北 朝 霞   | 140円 |
| 南 流 山 | 30円  | 新 座     | 140円 |
| 三 郷   | —    | 東 所 沢   | 160円 |
| 吉 川   | 40円  | 新 秋 津   | 190円 |
| 南 越 谷 | 40円  | 新 小 平   | 210円 |
| 東 川 口 | 60円  | 西 国 分 寺 | 210円 |
| 東 浦 和 | 80円  | 北 府 中   | 240円 |
| 南 浦 和 | 100円 | 府 中 本 町 | 240円 |

第152号 広報みさと 昭和48年4月15日発行 (2)

## の武蔵野線開通する



今まで交通手段としてバスだけにたよっていた当市に、待望の国鉄武蔵野線が4月1日に開通しました。

昭和40年秋に起工して以来8年―1,400億円という巨額を投じて建設がすすめられてきた同線が開通したことにより、当市にどのような利点をもたらすのでしょうか。

## 大きく変わった市内の交通網

四月一日に開通した武蔵野線は、首都圏を一周する第二の山手線ともいわれる国鉄外環状線の一部で、新松戸―川崎間小倉間九十六キロメートルのうち、新松戸―府中本町までの五十七・五キロメートルが開通したわけだ。

中間駅は十五駅(八回参照)あり、新松戸で常磐線と千代田線、南浦和で京浜東北線、西国分寺で中央線、府中本町で南武線にそれぞれ接続します。

本市の三郷駅は、新松戸から四・一キロメートル、府中本町からは五十三・四キロメートルの位置にあります。この線を利用して新松戸から常磐線への乗り換えができますので、周辺の住民にとって便利になります。

また、これまで浦和方面へ行く場合、一例をあげると、吉川を経由して越谷までバスにのり、越谷―春日部―大宮―浦和と重武・国鉄線を利用して行きますと、およそ二時間三十分かかっていたものが、この線を利用して南浦和までわずか三分の一の二十分たらずで行くことができるようになります。

市内のバス路線も新駅を中心とした新路線になりましたので、沿線の市民に限らず、多くの市民もこの線の恩恵を受けることができます。

ところで、武蔵野線を含めた東京外環状線の計画は、どういうものなのでしょうか。

首都圏の輸送増強と沿線開発を目的とした東京外環状線は、武蔵野線、小金線、京葉線の三線で形成され、総延長は二〇〇キロメートルにもなります。

この三線のうち、いちばん早く開通したのがこの武蔵野線ですが、府中本町―川崎間小倉間の開通は、まだ先になります。

## 3月30日 開駅式行なう



四月一日から待望の国鉄武蔵野線が一部開通(新松戸―府中本町間の五十七・五キロメートル)しましたが、その前々日の三月三十日、三郷駅の開駅式が開通式と並行して同駅において行なわれました。

当日は、白石市長をはじめ、市議会議員並びに各関係者多数が出席し、三郷駅から新松戸までの間を往復試乗したのち、白石市長と近江電機部長にも、テープにはさまが入れられ、無事、開駅式を終了しました。